

授業科目名	【G】 研究会 I・II 【EF】 研究会 I・II	区分	開講年次	【G】3 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目					
授業形態	対面授業					
担当形態	単 独	【G】 【EF】				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	英米法的発想へのアプローチ			担当者	吉田 一雄	
授業概要	【概要】	履修者各自の問題関心に応じたテーマを個別に設定し、あらゆる手段で資料を収集・分析して、問題の解決方法を探る。				
	【到達目標】	各自の設定した問題関心に関して、オリジナルの英文資料をもとにして、議論が展開できること。従って、また、その問題に関しては、日本で最も知見を有すると確信できる水準を理想とする。				
履修条件	①全時間出席できること。②授業外での学習時間が充分確保できること。 ③大学のPCのIDが利用可能であること。④英米法 I・II を履修すること。					
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)				
他科目との関連性	英米法 I II、情報リテラシー、英語					
教科書	各自のテーマによる					
参考書	英英辞典を各自の英語力に応じて準備すること					
評価方法	PCによる最終のプレゼンテーション報告(80%)、参加意欲(20%)。					
フィードバック方法	随時、研究の進捗状況をチェックする。					
評価基準	図書館やネット等の情報検索に習熟し、英米法のオリジナル資料の収集ができれば「C」、その資料の読解と分析ができれば「B」、プレゼンテーションと法的議論ができる場合に「A」とし、特に優れている場合に「S」を与える。上記レベルに及ばない場合に「D」、評価対象を準備できない場合に「E」とする。また、遅刻欠席を繰り返す場合には「F」。					
その他	特になし					

授 業	【 G 】 研究会 I ・ II	区 分	開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 2
科目名	【 EF 】 研究会 I ・ II	必 修		【 EF 】 3		【 EF 】 2
授業内容	<p>概ね次の手順による。(年間を通じて、各手順3コマ程度があてられる(順不同))</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英米法全般の理解</li> <li>2. テーマ選定</li> <li>3. 英米法の調査方法(図書館およびインターネット)</li> <li>4. 資料収集と整理方法</li> <li>5. 資料分析</li> <li>6. 教員への報告と討論</li> <li>7. 追加資料収集と分析</li> <li>8. プレゼンテーション準備</li> <li>9. 教員への報告と内容修正</li> <li>10. プレゼンテーション報告と質疑応答</li> </ol>					
予習内容	<p>授業時間は各自の進捗報告と質問に当てられる。実質的な学習は授業時間外に予習としておこなわれるので相当な予習時間を必要とする。 授業ごとの予習時間は120分程度を目安としてください。</p>					
復習内容	<p>復習というものは特に必要なく、次の予習に充てられる。 授業ごとの復習時間は120分程度を目安としてください。</p>					